

Indacaterol and tiotropium combination therapy in patients with chronic obstructive pulmonary disease

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2018-05-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松島, 紗代実 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3342

論文審査の結果の要旨

慢性閉塞性肺疾患(以下 COPD)は進行性の難治性疾患で世界的にも死因の上位を占めている。従来薬物治療として長時間作用型の抗コリン薬(Long-acting anti-muscarinic agent, LAMA)もしくは β_2 刺激薬(Long-acting beta2 agonist bronchodilator, LABA)を用い、単剤治療で効果が乏しい際に併用療法を行うことが推奨されている。申請者らは今回比較的新しい β_2 刺激薬であるインダカテロールもしくは抗コリン薬チオトロピウムを単剤で使用している患者にこれらの薬剤を上乗せした効果を通常のスパイロメトリーに加えて強制オシレーション法による気道抵抗測定で呼吸機能を測定し、さらに COPD assessment test (CAT)で QOL 評価を比較検討した。今回の気道抵抗測定では一回の呼吸で計測でき、患者への侵襲が極めて少ないと考えられるモストグラフを用いて測定を試みた。

対象はすでにどちらかの薬剤で治療されている 79 名の COPD 患者(中央値 72.1 歳、喫煙歴 60.5 pack-year)で、インデカロールを追加投与した群(以下 I 群、n=43)、チオトロピウムを追加投与した群(以下 C 群、n=36)で併用療法を開始、実施後 8 週間で効果を比較した。その結果、スパイロメトリーでは両群ともに 1 秒量および 1 秒率は改善した。モストグラフによる呼吸全体の気道抵抗値は I 群で R20、C 群では R5、R20 の有意な改善が認められた。QOL に関しては特にインダカテロールを追加した群でのみ顕著に改善が見られ(9.95 から 8.41, $p<0.05$)、 β_2 刺激による強力な気管支拡張作用が自覚症状の改善に反映された可能性があると考えられた。以上より併用療法は気流閉塞および呼吸抵抗を有意に改善し、COPD 治療に有用であると結論した。審査委員会では、これらの薬剤の併用効果が従来のスパイロメトリーに加え、モストグラフで測定される気道抵抗でも客観的に評価できることをはじめて明らかにした点を高く評価した。

以上により、本論文は博士(医学)の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 中島 芳樹

副査 川上 純一

副査 伊藤 泰介